



平成24年1月30日

卓話『日本の底力』

衆議院議員

小池 百合子 様

小池でございます。本日は記念すべき300回目の例会にお招きを賜り、お礼とお祝いを申し上げます。今、安井会長から私との接点をお話いただきました。環境大臣の折、ルーティンワークの他に大臣だからこそできることをやってみようと思ひ、環境という生活者に近いところで活躍しておられる女性の方々のパワーを活用して日本のライフスタイルを変えていこうと立ち上げたのが環境ビジネスウィメンでございます。建築関係、CSRの専門家、環境配慮の金融などにリーダーシップを振るっておられる方々に情報交換をしていただき、発展していこうという考えでございます。

今日お話ししようと思っている日本の底力はまさにそこでございます。日本の成長戦略の最たるものは女性である、女性を活用せずして何が成長戦略かという認識です。そのメンバーのキャシー松井さんというゴールドマンサックスの女性によれば、女性の働く環境をきちり整備すると日本の労働市場で800万の雇用が生まれ、15%GDPが拡大するということです。実際に福井県では出生率も、働く女性の比率も高いんですね。女性が働けば経済が活発になると同時に少子化対策にもなる。じゃあどうやって女性が働ける環境を作るかということですが、福井県の例では大体親御さんの近くに住んでいて、子育てはおじいちゃん、おばあちゃんにお願いするというのがかなり進んでいる。東京の私の選挙区でも2世代の住宅が一般的になりつつあります。かつて核家族といっていたのが実はちよいと戻って、エクステンデッド・ファミリーの方に若干変わってきている。その辺のところも考察しなければなら

ないと思います。

働く女性が増えると女性の収入が増え、高額化粧品が売れたりエステティックサロンなどの産業が伸びてくる。いかにして女性の財布を豊かにするか、そのための働く場を見つけるか。

私は、ちょっと方向性を変えるだけで変わっていくんじゃないかと思ひます。若い経営者の介護ビジネスに乗り出すベンチャーなども結構出てきて、大変高いフィロソフィーのもとでそれをやろうとしている。そういったところをモデルケースとしてサポートしていくことも必要ではないか。それに対して社会保障はどうするのかという基本的な考えが必要だと思ひます。

ビジネスウィメンの第1回の会合で、ベンチャーを始めるに当たってどんな苦労があったかという話が出ました。その中でお父さんにはお金は出すけど、あなたには出さんよという金融機関が圧倒的に多かったという話がありました。でも先を見通す力、マネージメント力、あんまり男女関係ないんですね。もし社会的な訓練が出来ていないのなら、女性を特に活用していくシステムを作るべきである。今年、成年を迎えた子供たちは122万人、年々減っているわけですが、どうやって子供を育てられる環境を作ることがポイントになると思ひます。ご静聴ありがとうございました。

